

研究ノート

ドイツ語教科書における名詞 Zeit の共起語調査

黒 田 廉

富山大学人文科学研究第 83 号抜刷

2025 年 9 月

ドイツ語教科書における名詞 Zeit の共起語調査

黒 田 廉

1. はじめに

コロケーションの習得が自然な言語表現を身に付ける上で重要な役割を果たすことは、外国語教育においてすでに広く認識されている。しかしながら、日本人ドイツ語学習者がコロケーションを効果的に学ぶための適切な教材は、現状ほとんど存在しない。現在、2点のコロケーション辞典が出版されてはいるが、いずれもドイツ国内で編集されたもので、豊富な語彙を収録している一方、非常に大部で扱いづらく、当然のことながら日本語訳も付されていない。したがって、日本人学習者にとっては実用性に乏しく、使いづらい面がある¹⁾。

このような状況を踏まえると、日本人学習者が学習場面で実際に遭遇する語彙も含んだ、実用性が高く、利用しやすいコロケーション・リストが求められる。

本研究の目的は、日本人学習者向けのコロケーション・リスト作成に向けた基礎資料を得ることである。具体的には、名詞 Zeit を対象に、次の3点についてドイツ語教科書で調査を行った結果を報告する²⁾。

1. 名詞 Zeit に共起する語とその出現頻度
2. それらの共起語のうち、コロケーションの構成素とみなされる語の割合
3. 教科書に出現するコロケーションの構成素が一般的なテキストにおいても使用されているかの検証

2. 調査対象と調査方法

本研究の対象は、名詞 Zeit に共起する語彙である。名詞を選定したのは、コロケーションの基語 (Basis) として、名詞がしばしば重視されるためである³⁾。なかでも Zeit を選んだのは、

1) とくに Quasthoff (2010) は、コロケーションが列挙されているだけで、用例もなく、コロケーションの使い方がわかりづらい。

2) 英語教育においては、すでにしばしば教科書のコロケーション調査が実施されており、たとえば、畔元 (2023)、中條他 (2007)、福富 (2012)、小屋 (2010, 2015)、Takesue (2019, 2022) がある。

3) たとえば、Hausmann (1985: 119) は、„Die wichtigste Basiswortart ist das Substantiv, weil es die Substantive sind, welche die Dinge und Phänomene dieser Welt ausdrücken, über die es etwas zu sagen gibt. Adjektive und Verben kommen als Basiswörter nur insoweit in Frage, als sie durch Adverbien weiter determiniert werden können.“と述べている。また、堀 (2012: 82f.) は、国内外の英語コロケーション辞典、コロケーション欄のある英語辞典が名詞と他の語との共起関係を重視してい

基本語として異論が少ないと考えられること、経験上、Zeitは学習の初期から繰り返し出現すること、頻度においても名詞の中で最上位の方に位置する語⁴⁾であるからである。

共起語としては、Zeitを4格目的語とする動詞およびZeitの付加語形容詞を対象とし、以下、それぞれ「共起動詞」「共起形容詞」と呼ぶ。

調査には、CEFR B1レベルに相当する、外国語としてのドイツ語学習者用教科書6点を使用した⁵⁾。MenschenおよびSchritte International neuはそれぞれB1レベルの教材が2巻構成であるが、同一レベルであるため、2巻をまとめて1点として扱う。以下に、使用教科書とその略称を示す。

- ・ Berliner Platz 3 NEU. Deutsch im Alltag. Ernst Klett Sprachen. 2017. [Berliner]
- ・ DaF kompakt neu B1. Ernst Klett Sprachen. 2016. [DaF]
- ・ Menschen. Deutsch als Fremdsprache. B1.1. Hueber Verlag. 2014.
- ・ Menschen. Deutsch als Fremdsprache. B1.2. Hueber Verlag. 2014. [Menschen]
- ・ Motive. Kompaktkurs DaF. Hueber Verlag. 2016. [Motive]
- ・ Passwort Deutsch 5. Ernst Klett Sprachen. 2014. [Passwort]
- ・ Schritte International neu 5. Niveau B1/1. Hueber Verlag. 2018.
- ・ Schritte International neu 6. Niveau B1/2. Hueber Verlag. 2018. [Schritte]

CEFRにおいてB1レベルは「自立した言語使用者」の最初の段階とされ、ドイツ語圏では一般的な語学力の基準とされている。さらに、ドイツ国籍の取得、職業訓練の前提条件であり、ドイツ留学準備のためには、B1レベルのドイツ語力が最低限必要とされることから、本研究ではこのレベルを調査対象とした。

表1は、各教科書の語彙の異なり語数およびのべ語数を示したものである。いずれもCEFR B1レベルに準拠した教材であるが、語数には教科書間で差がみられる。異なり語数でもっとも多いのがPasswortの5,044語であり、もっとも少ないのはMotiveの3,661語である。Passwortの異なり語数はMotiveの約1.4倍に相当する。のべ語数ではSchritteが最多の45,718語であり、Passwortもこれに近い45,048語である。最少はDaFで34,249語であり、Schritteの語数はDaFの

ることを挙げつつ、名詞の重要性を述べている。名詞の重要性を述べたものとして、他にも、Barnard (2010), Cowie (2009: 284), 恒川 (2019) 等がある。

4) 頻度辞典 Tschirner/Möhring (2020) で、Zeitは上位96番目、名詞としてはMal, (82位), Mensch (90位), Beispiel (94位) に続いて4番目である。

5) Passwort, DaF, Berliner Platzには、練習帳 (ÜbungsbuchあるいはArbeitsbuch) も付属しているが、この部分は除いた。目次、付録、図版中の語、記号、ページ番号、人名・国名などの固有名詞および固有名詞から派生した形容詞も除いてある。

語数の約 1.3 倍にあたる。

表 1：各教科書の語数

	Berliner	DaF	Menschen	Motive	Passwort	Schritte
異なり語数	3,828	4,084	4,396	3,661	5,044	3,851
のべ語数	36,019	34,249	42,273	36,332	45,048	45,718

教科書に出現する共起語のうち、コロケーションの構成素を判断するために、以下の 2 点のコロケーション辞典を使用した。

Buhofer, A. H. et al. (2014) Feste Wortverbindungen des Deutschen: Kollokationenwörterbuch für den Alltag. Tübingen : francke.

Quasthoff, U. (2011) Wörterbuch der Kollokationen im Deutschen. Berlin : De Gruyter.

両辞書の記述を比較・分析した恒川 (2020) によれば, Buhofer と Quasthoff の間でのコロケーション・データの一致率はおおよそ 2 ～ 3 割前後と低く, 両辞書に共通しない共起語の方が多数を占めるという。

表 2 は, 両辞書において Zeit のコロケーションの構成素として採録されている共起動詞, 共起形容詞のそれぞれの数, および辞書間での一致数と一致率を示したものである。「Buhofer + Quasthoff」の項目における「総数」は Buhofer および Quasthoff 両辞書に共通して採録されている語と, いずれか一方にのみ採録されている語を合計したものである。「共通」は, 両辞書に共通して記載されている語を指す。「一致率」は「Buhofer + Quasthoff」の「総数」の語数に対する「共通」の語数の割合である。

表 2：コロケーション辞典にある Zeit の共起語

	Buhofer	Quasthoff	Buhofer+Quasthoff		一致率 (%)
			総数	共通	
共起動詞	65	53	87	31	35.63
共起形容詞	71	218	253	36	14.23

表 2 が示すように, 名詞 Zeit の共起語においても, 両辞書のデータには大きな違いがあり, 一致率は共起動詞で 35.63%, 共起形容詞では 14.23%にとどまる⁶⁾。共起動詞では比較的高い数

6) とくに形容詞の場合は, Quasthoff の採録語が Buhofer の約 3 倍で, 一致率を下げている。

値であるが、共起形容詞では一致率は非常に低く、使用する辞書によって、コロケーションの構成素とみなす語彙の範囲が大きく異なることになる。本研究では、BuhoferおよびQuasthoff両辞書を用いて、それぞれの結果を比較・検討する。

教科書に現れるコロケーションの構成素の一般的なテキストにおける使用状況を確認するために、以下のDWDSのWortprofilを使用した。Zeitの共起語を頻度順に上位100語まで抽出し、教科書で確認された構成素がその中に含まれているかを調査した。

DWDS - Digitales Wörterbuch der deutschen Sprache. Statistische Auswertungen – DWDS-Wortprofil.
Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften.
(<https://www.dwds.de/>)

3. 教科書に出現する名詞Zeitの共起語

3.1. 名詞Zeitの出現数

名詞Zeitの出現数を教科書別に集計した結果を表3に示す。出現数には教科書間で顕著な差があり、最多はPasswortの98であった。Menschen, Berliner, Schritteの3点が60台でほぼ並び、MotiveとDaFは20台と少ない出現数にとどまった。最多のPasswortと最少のDaFとの間には、約4倍の差がある。

Zeitの出現数は、共起語の出現傾向と概ね一致しており、Zeitの出現数が多い教科書では、共起語の出現数も多くなる。以降の分析では、Passwortはもっとも共起語数の多い教科書として、DaFあるいはMotiveはもっとも共起語数の少ない教科書として、たびたび言及することになる。

表3：名詞Zeitの出現数

教科書	Berliner	DaF	Menschen	Motive	Passwort	Schritte	計
出現数	66	24	64	26	98	69	347

3.2. 共起動詞

名詞Zeitと共起する動詞の出現数を表4に示す。6点の教科書全体で、異なり語数は21、のべ語数は148である。

共起動詞の出現数は教科書間で差が大きい。異なり語数でみると、PasswortとSchritteにはそれぞれ10前後の共起動詞が現れるが、他の4点Berliner, DaF, Menschen, Motiveでは、それぞれ3～5語しか現れない。のべ語数では、Passwortがとくに多く（41語）、最少のMotive（11語）の約4倍に相当する。

表 4：共起動詞の出現数

	Berliner	DaF	Menschen	Motive	Passwort	Schritte	全体
異なり語数	5	4	5	3	12	9	21
のべ語数	31	10	22	11	41	33	148

これら6点の教科書の間で、同一の語が多数の教科書に共通して使用されている例は少ない。むしろ、教科書ごとに異なる語が使われている傾向が強く、語の重複がみられる場合でも、数点の教科書間にとどまることが多い。表5は、共起動詞が出現する教科書の数を示したものである。全21語のうち、6点すべての教科書に共通して出現したのは1語のみで、habenであった。5点の教科書に出現した語も nehmen の1語にとどまる。残る19の共起動詞は1点から3点の教科書にしかみられない。とくに1点の教科書にのみ出現する語は13語であり、全体の半数以上を占めている。

表 5：出現教科書数と共起動詞数

出現教科書数	6	5	4	3	2	1
共起動詞数	1	1	0	2	4	13

出現頻度の高い共起動詞もごく一部に限られる。表6は、6点の教科書全体におけるすべての共起動詞の出現頻度を、高いものから順に示したものである。比較的高頻度を示すのは、上位3語（haben, nehmen, verbringen）のみであり、4位以下の18語はいずれも頻度5以下である。さらに、12位以下の10語は1回しか出現しておらず、全体の半数近くになる。上位3語の中では、habenの頻度が88と突出しており、この1語だけで全体ののべ語数148のうち60.27%を占める。

全体としての出現頻度は高い語であっても、教科書ごとの分布は必ずしも一様ではない。表7は、上位3語の教科書別出現数を示したものである。動詞 nehmen, verbringen は、全体では2位、3位を占めるものの、一部の教科書に集中して出現しており、1回しか出現しない、あるいはまったく出現しない教科書も存在する。これらに対し、動詞 haben だけは6点すべての教科書に共通して出現し、ほとんどの教科書で最頻出語となっている。ただし、Motiveに限っては、habenの出現頻度が全体で2位の nehmen を下回っている。

表 6：共起動詞の頻度

順位	共起動詞	頻度	教科書数	順位	共起動詞	頻度	教科書数
1	haben	88	6	12	beenden	1	1
2	nehmen	13	5	12	geben	1	1
3	verbringen	11	3	12	investieren	1	1
4	brauchen	5	3	12	kosten	1	1
4	verlieren	5	2	12	lassen	1	1
6	einteilen	4	2	12	notieren	1	1
7	finden	3	2	12	planen	1	1
7	anzeigen	3	1	12	überbrücken	1	1
9	einplanen	2	1	12	verkünden	1	1
9	nutzen	2	2	12	wünschen	1	1
9	spenden	2	1		計	148	

表 7：のべ語数上位 3 語の教科書別頻度

共起動詞	Berliner	DaF	Menschen	Motive	Passwort	Schritte	計
haben	25	7	18	4	19	15	88
nehmen	1	1	1	5	0	5	13
verbringen	0	0	0	2	5	4	11

共起動詞については、出現する教科書の数および全体での頻度のいずれにおいても、多く用いられているのはごく一部の語に限られる。ほとんどの語は 6 点の教科書すべてで現れることはなく、せいぜい 2, 3 点の教科書に共通して出現するのみで、1 点の教科書に 1 回のみ出現する語も全体の半数近くに上る。唯一 haben だけがすべての教科書に共通して出現しており、出現頻度においても他の語を大きく上回っている。さらに、(一部を除き)各教科書においてももっとも頻繁に用いられている。

3.3. 共起形容詞

表 8 に名詞 Zeit と共起する形容詞の出現数を示す。6 点の教科書全体で、異なり語数は 43、のべ語数は 155 である。教科書ごとにみると、Passwort が異なり語数、のべ語数ともに最多である。最少は、異なり語数では Motive が、のべ語数では DaF であった。

共起動詞の場合と比較すると、教科書全体ののべ語数に大きな差はないが、異なり語数では共起形容詞の方が倍以上と多く、より多様な語が使用されていることがわかる。個別の教科書でも、共起動詞では異なり語数が 3 ～ 12 語であったのに対し、共起形容詞では 9 ～ 21 語となっており、いずれの教科書においても、共起形容詞の方が多様な語が用いられている。

表 8：共起形容詞の出現数

	Berliner	DaF	Menschen	Motive	Passwort	Schritte	全体
異なり語数	11	10	16	9	21	12	43
のべ語数	20	17	26	19	46	27	155

共起形容詞に関しても、同一の語が多く教科書に共通して出現することは少ない。表 9 は、共起形容詞が出現する教科書数を示したものである。共起形容詞 43 語のうち 6 点すべての教科書に出現したのは 2 語のみで、kurz と wenig である。共起動詞の場合と比較すると、4～6 点の教科書に現れる語はやや多いが、大部分の語は 1～3 点の教科書にしか出現していない。とくに 1 点の教科書にのみ出現する語は 27 語で、全体の 6 割以上を占める。以上のように、共起形容詞においても、教科書間で広く共通してみられる語は、比較的少数に限られている。

表 9：出現教科書数と共起形容詞数

出現教科書数	6	5	4	3	2	1
共起形容詞数	2	1	3	3	7	27

出現頻度の高い形容詞も一部に限られている。表 10 は出現する共起形容詞と 6 点すべての教科書での頻度を示す。共起形容詞の場合、共起動詞の場合ほど頻出語とそれ以外の語が明確に分かれておらず、haben のように頻度が特定の 1 語に集中することはない⁷⁾。それでも、上位 3 語の合計頻度は、全体ののべ語数 155 のうち 41.29% を占める。7 位以下の 37 語は頻度 4 以下で、25 位以下の 19 語は頻度 1 であり、頻度の低い語が大部分であることには変わりがない。

共起形容詞の場合、6 点すべての教科書において高頻度で用いられている語はみられない。表 11 は、教科書全体で出現頻度上位 3 位までの共起形容詞について、各教科書における頻度を示したものである。全体での頻度が高い語であっても、教科書ごとの頻度では大きなばらつきがみられた。たとえば、全体で最頻出である viel は 4 点の教科書においては最頻出である一方⁸⁾、Berliner では 1 回にとどまり、DaF ではまったく使用されていない。第 2 位の kurz は、6 点すべての教科書に出現するものの、DaF、Menschen、Motive ではそれぞれ各 1 回ずつしか確認されない。

7) 最多の viel がのべ語数全体に占める割合は、20.00%

8) ただし、Schritte では kurz と同数 1 位。

表 10：共起形容詞の頻度

順位	共起形容詞	頻度	教科書数	順位	共起形容詞	頻度	教科書数
1	viel	31	5	13	uralt	2	1
2	kurz	20	6	13	verschieden	2	1
3	wenig	13	6	25	begrenzt	1	1
4	ganz	10	4	25	einmalig	1	1
5	einige	9	4	25	fest	1	1
6	gleich	7	3	25	fix	1	1
7	gut	4	4	25	frei	1	1
7	lang	4	3	25	früher	1	1
7	schlecht	4	3	25	groß	1	1
7	letzt	4	2	25	hart	1	1
11	erst	3	2	25	herrlich	1	1
11	beeindruckend	3	1	25	keltisch	1	1
13	alt	2	2	25	lehrreich	1	1
13	aufregend	2	2	25	nächst	1	1
13	bestimmt	2	2	25	neu	1	1
13	schön	2	2	25	normal	1	1
13	unterschiedlich	2	2	25	römisch	1	1
13	heutig	2	1	25	schulfrei	1	1
13	interessant	2	1	25	selten	1	1
13	mitteleuropäisch	2	1	25	spätrömisch	1	1
13	schwierig	2	1	25	verrückt	1	1
13	toll	2	1		計	155	

表 11：のべ語数上位 3 語の教科書別頻度

共起形容詞	Berliner	DaF	Menschen	Motive	Passwort	Schritte	計
viel	1	0	5	8	11	6	31
kurz	6	1	1	1	5	6	20
wenig	2	5	1	2	2	1	13

共起形容詞に関しても、教科書間で共通して使用される語は少なく、共起動詞の場合と比較してより多様な語が教科書ごとに異なる頻度で用いられている傾向が顕著である。また、特定の語が教科書全体においても、個別の教科書においても際だって多く出現する傾向もみられない。ある語が全体としては高頻度であっても、実際には特定の教科書に偏在しているだけで、他の教科書ではまったく確認されない場合もある。

4. 共起語とコロケーション

教科書の共起語とコロケーション辞典の採録語との一致状況を比較し、教科書におけるコロケーションの収録状況について述べる。

4.1. 共起動詞

表12は、教科書に出現する共起動詞について、BuhoferおよびQuasthoffそれぞれの辞書のデータとの（異なり語数での）一致数および一致率を示している。「共起動詞数」は、6点の教科書すべてに出現する共起動詞の総数を指す。「採録語数」は、それぞれの辞書に名詞 Zeit のコロケーションの構成素として採録されている共起動詞の数である。「一致数」は、教科書の全共起動詞のうち辞書採録語と一致する語の数である。「一致率」は教科書の共起語数に占める一致数の割合である。

また、表13は、教科書に出現するすべての共起動詞を一覧化し、それぞれが辞書においてコロケーションの構成素として採録されているかどうかを示したものである。各共起動詞は教科書全体の頻度順に並べてある。

表 12：教科書の共起動詞と辞書間のデータの一致

共起動詞数	辞書名	採録語数	一致数	一致率 (%)
21	Buhofer	65	14	66.67
	Quasthoff	53	9	42.86
	Buhofer + Quasthoff (総数)	87	15	71.43
	(共通)	31	8	38.10

表 13：教科書の各共起動詞と辞書採録語との一致状況

順位	共起動詞	頻度	教科書数	B	Q	順位	共起動詞	頻度	教科書数	B	Q
1	haben	88	6	○	○	11	beenden	1	1		
2	nehmen	13	5	○		11	geben	1	1		○
3	verbringen	11	3	○		11	investieren	1	1	○	○
4	brauchen	5	3	○		11	kosten	1	1	○	
4	verlieren	5	2	○	○	11	lassen	1	1	○	○
6	einteilen	4	2	○		11	notieren	1	1		
7	finden	3	2	○	○	11	planen	1	1		
7	anzeigen	3	1	○	○	11	überbrücken	1	1	○	
9	nutzen	2	2	○	○	11	verkünden	1	1		
9	einplanen	2	1	○	○	11	wünschen	1	1		
9	spenden	2	1				計	148			

備考：B = Buhofer, Q = Quasthoff, ○は当該辞書に採録されていることを表す。

表12で、Buhoferの場合、教科書に出現する共起動詞21語のうち14語が辞書データと一致しており、一致率は約67%である。すなわち、Buhoferに基づけば、教科書全体に出現する共起動詞のおよそ3分の2がコロケーションの構成素とみなされることになる。さらに、表13が示すように、頻度1位のhabenから、spendenを除く9位までの10語はすべてBuhoferと一致しており、比較的頻度の高い語はコロケーションの構成素として含まれることになる。

一方で、Quasthoffの場合は、表12にみられるように、一致語は9語で一致率は約43%にとどまる。すなわち、Quasthoffに基づけば、全体の約4割強がコロケーションの構成素として扱われることになり、Buhoferに比べて低い水準にとどまる。表13が示すとおり、Buhoferとは異なり、Quasthoffとの一致語には、頻度1位のhabenはあるものの、2位のnehmen、3位のverbringenといった比較的高頻度の語は含まれていない。

以上のように、Buhoferに基づけば、コロケーションの構成素として扱う語彙の範囲が広くなる。とくに頻度の高い語はほぼコロケーションの構成素に含まれる。これに対し、Quasthoffに基づいた場合、コロケーションの構成素とされる語彙がより限定的であり、比較的頻度の高い語でも含まれないという特徴がある。

4.2. 共起形容詞

表14は、教科書に出現する共起形容詞について、BuhoferおよびQuasthoffそれぞれの辞書データとの一致数および一致率をまとめたものである。

共起動詞の場合、Buhoferが一致数および一致率でQuasthoffより高い結果を示していた。しかし、共起形容詞については、Buhoferの一致数はQuasthoffよりわずかに1語多いにすぎず、一致率は66.67%から41.86%へと大きく低下し、両者の間にはほとんど差がない。一方で、Quasthoffでは、一致率は共起動詞の42.86%から共起形容詞では39.53%へとわずかに低下した程度にとどまっている。すなわち、共起形容詞に関しては、BuhoferおよびQuasthoffのいずれの辞書によっても、コロケーションの構成素とみなすことができる語数と全体に占める割合には大きな違いがみられない。

ただし、それぞれの辞書がコロケーションの構成素としている語彙の中身はかなり異なる。表14の「共通」が示すように、BuhoferとQuasthoffの両方に共通して含まれる語は全体の約2割にすぎず、カバーする語彙の範囲の違いが大きいことは明らかである。

また、一見すると両辞書の一致率は同程度であるが、採録語数に着目すると、Quasthoffの一致率は相対的に高いとはいえない。というのも、QuasthoffはBuhoferの71語の約3倍に相当する218語を収録しているにもかかわらず、一致数はBuhoferとほぼ同程度でしかないからである。恒川（2020: 111f.）は、Quasthoffは一般にコロケーション採録数が多く、とくに共起形容詞には極端な例がみられると指摘している。一致数が相対的に少ない背景には、Quasthoffに含まれるデータの独自性の高さが関係している可能性がある。

表 14：教科書の共起形容詞と辞書間のデータの一致

共起形容詞数	辞書名	採録語数	一致数	一致率 (%)
43	Buhofer	71	18	41.86
	Quasthoff	218	17	39.53
	Buhofer + Quasthoff (総数)	253	27	62.79
	(共通)	36	8	18.6

表 15：教科書の各共起形容詞と辞書採録語との一致状況

順位	共起形容詞	頻度	教科書数	B	Q	順位	共起形容詞	頻度	教科書数	B	Q
1	viel	31	5			13	uralt	2	1	○	○
2	kurz	20	6			13	verschieden	2	1		
3	wenig	13	6	○	○	25	begrenzt	1	1	○	
4	ganz	10	4	○		25	einmalig	1	1		
5	einige	9	4			25	fest	1	1		
6	gleich	7	3		○	25	fix	1	1		
7	gut	4	4	○		25	frei	1	1	○	
7	lang	4	3	○		25	früher	1	1	○	
7	schlecht	4	3	○	○	25	groß	1	1		○
7	letzt	4	2	○	○	25	hart	1	1	○	○
11	erst	3	2			25	herrlich	1	1		○
11	beeindruckend	3	1	○	○	25	keltisch	1	1		
13	alt	2	2		○	25	lehrreich	1	1		○
13	aufregend	2	2		○	25	nächst	1	1	○	
13	bestimmt	2	2		○	25	neu	1	1	○	
13	schön	2	2			25	normal	1	1		○
13	unterschiedlich	2	2	○		25	römisch	1	1	○	
13	heutig	2	1			25	schulfrei	1	1		
13	interessant	2	1	○	○	25	selten	1	1		
13	mitteleuropäisch	2	1			25	spätromisch	1	1		
13	schwierig	2	1			25	verrückt	1	1		○
13	toll	2	1	○	○	計		155			

備考：B = Buhofer, Q = Quasthoff. ○は当該辞書に採録されていることを表す。

表15は、教科書に出現するすべての共起形容詞を一覧化し、それぞれが辞書データと一致するかどうかを示したものである。共起動詞の場合には、比較的頻度の高い語は、Buhoferではコロケーションの構成素とされていたが、共起形容詞に関しては、そのような傾向は確認できない。いずれの辞書を基準とした場合でも、出現頻度の高い語が必ずしもコロケーションの

構成素として扱われるわけではない。たとえば、のべ語数で第1位の viel および第2位の kurz は、Buhofer あるいは Quasthoff のいずれの辞書にも採録されておらず、コロケーションの構成素として認定されていない⁹⁾。

5. コロケーションの構成素の一般コーパスでの頻度

コロケーションの構成素として認定される教科書の共起語について、一般コーパスでの頻度を調査し、一般的なテキストでも使用されるかどうかを検証する。

5.1. 共起動詞

表16は、教科書の共起動詞のうち Buhofer あるいは Quasthoff でコロケーションの構成素とされている語について、教科書および DWDS-Wortprofil における頻度と順位を示したものである。DWDS-Wortprofil のデータは、Zeit を 4 格目的語とする動詞の上位 100 語を出力した場合のものである¹⁰⁾。表中の語は教科書での頻度が高い語から順に並べてある。

Buhofer によってコロケーションの構成素とされる 14 語および Quasthoff によってコロケーションの構成素とされる 9 語は、すべて DWDS-Wortprofil の上位 100 語内にも含まれている。これらの語は一般的なテキストにおいても広く使用されていることが確認できる。とくに、Buhofer に採録されている語のうち、教科書で出現頻度第2位の nehmen と第3位の verbringen は、DWDS でも同様にそれぞれ第2位、第3位となっており、教科書と一般コーパスの間の順位が一致している。一方で、教科書で最頻出語であった haben は、DWDS では 94 位と最下位に位置している。haben については、教科書での頻度と一般的なテキストでの頻度の間に大きな乖離がみられる。

9) いずれも Zeit と自由結合した語であるということであろう。

10) 共起形容詞の場合も含めて、データ取得日は 2025 年 3 月 8 日。

表 16：コロケーションの構成素とされる共起動詞の頻度と順位

共起動詞	教科書		DWDS		Buhofer	Quasthoff
	順位	頻度	順位	頻度		
haben	1	88	15	391	○	○
nehmen	2	13	2	38206	○	
verbringen	3	11	3	35723	○	
brauchen	4	5	1	40680	○	
verlieren	4	5	9	8756	○	○
einteilen	6	4	13	1027	○	
finden	7	3	8	9522	○	○
anzeigen	7	3	14	798	○	○
nutzen	9	2	6	12149	○	○
einplanen	9	2	12	1117	○	○
geben	12	1	4	34223		○
investieren	12	1	10	4677	○	○
kosten	12	1	7	10417	○	
lassen	12	1	5	33126	○	○
überbrücken	12	1	11	2859	○	

備考：○は当該辞書に該当する語があることを表す。

5.2. 共起形容詞

表 17 は、教科書の共起形容詞のうち、Buhofer あるいは Quasthoff でコロケーションの構成素とされる語について、教科書および DWDS-Wortprofil における頻度と順位を示している。

共起形容詞についても、コロケーションの構成素とされる語の大部分は DWDS-Wortprofil の上位 100 語位内に含まれており、これらが一般的なテキストにおいて高頻度で使用されていることがわかる。ただし、Buhofer で構成素とされている 18 語のうち、DWDS-Wortprofil に含まれていないのは 1 語（uralt）だけであるのに対し、Quasthoff で構成素とされている 17 語については、5 語（uralt, interessant, herrlich, lehrreich, verrückt）が DWDS にはみられなかった。これら 5 語のうち（uralt を除く）4 語は Quasthoff にのみ採録されている語であり、Quasthoff には Buhofer よりも一般コーパスでは頻度が低い語が多く含まれている。

共起形容詞については、共起動詞での haben のような教科書と DWDS のリスト間で極端な頻度の乖離がみられる語はない。そもそも、教科書に高頻度で出現する形容詞が少なく、大部分は頻度が 4 以下であり、順位の差が実質的な意味をもたない場合も多い。ただし、いくつかの語では、教科書と DWDS での順位の違いに注目すべき差がみられる。たとえば、教科書では頻度第 2 位の ganz は DWDS では 7 位とやや低い。逆に教科書では頻度第 4 位で頻度も 4 と低い lang および lezt は、DWDS ではそれぞれ第 1 位、第 3 位と非常に高い頻度で出現している。

表 17：コロケーションの構成素とされる共起形容詞の頻度と順位

共起形容詞	教科書		DWDS		Buhofer	Quasthoff
	順位	頻度	順位	頻度		
kurz	1	20	2	152306	○	○
ganz	2	10	7	30218	○	
gleich	3	7	4	64000	○	
gut	4	4	5	59352		○
lang	4	4	1	220812	○	○
schlecht	4	4	13	16781	○	○
letzt	4	4	3	69433	○	
alt	8	2	6	31478	○	○
bestimmt	8	2	17	8695	○	
schön	8	2	18	8493		○
heutig	8	2	14	12233	○	○
interessant	8	2	-	-		○
schwierig	8	2	8	28500	○	○
toll	8	2	25	1718		○
uralt	8	2	-	-	○	○
begrenzt	16	1	22	3468	○	
frei	16	1	20	5355	○	
früh	16	1	12	17135	○	
groß	16	1	16	9915		○
hart	16	1	15	10573	○	○
herrlich	16	1	-	-		○
lehrreich	16	1	-	-		○
nächst	16	1	9	24236	○	
neu	16	1	10	23545	○	
normal	16	1	19	6481		○
römisch	16	1	27	1523	○	
verrückt	16	1	-	-		○

備考：○は当該辞書に該当する語があることを、-はDWDS-Wortprofilに該当する語がないことを表す。

6. まとめ

本研究では、日本人学習者向けのコロケーション・リスト作成の基礎資料として、名詞 Zeit を対象に、CEFR B1 レベルのドイツ語教科書における共起語の出現状況を調査した。その上で、それらにコロケーションの構成素が含まれているか、またコロケーションの構成素は一般的なテキストにおいても使用されているかを検討した。

その結果、以下の点が明らかとなった。

1. 共起語の分布の偏在性

共起動詞および共起形容詞ともに、使用される語は教科書ごとに異なることが多く、すべて

の教科書に共通して出現する語はごくわずかであった。教科書間で一致する語も、多くは2, 3点の間で重複してみられる程度であった。

共起動詞ではhabenのみが全教科書に共通して出現し、全体でもほとんどの教科書においても最頻出語であった。共起形容詞では高頻度の語はあるものの、特定の語に極端に頻度が集中することはなく、多様な語が教科書ごとに異なる頻度で使用されている傾向がより強かった。

2. コロケーションの構成素の割合

共起動詞に関しては、Buhoferに基づいた場合は教科書に出現する語彙の約3分の2が、Quasthoffに基づいた場合は約4割強が、コロケーションの構成素とみなされた。Buhoferの方が、比較的高頻度の語が入ってくる傾向がみられた。

共起形容詞については、いずれの辞書に基づいても一致率は4割程度にとどまった。ただし、両辞書のカバーする語彙の範囲には大きな差異があり、とくにQuasthoffは採録語数が多いにもかかわらず、一致率が相対的に低かった。

本研究で扱った教科書に関しては、Zeitの共起語の少なくとも4割程度はコロケーションの構成素とみなすことができる。教科書には、Buhoferの解釈によるコロケーションの方が、Quasthoffによるものよりも多く、含まれていた。

3. 一般コーパスにおける頻度

教科書に出現するコロケーションの構成素は、Buhoferに基づいた場合でもQuasthoffに基づいた場合でも、大部分がDWDS-Wortprofilの上位100語以内に含まれており、一般的なテキストにおいても、一定の頻度で使われていることが確認できた。ただし、共起動詞ではいずれの辞書による場合でもすべての語がDWDSのリストにあったが、共起形容詞では一部リストにない語があり、Quasthoffの場合にその数がやや多かった。

また、動詞habenのように、教科書とDWDS-Wortprofil間で頻度の乖離が大きい語があった。今後は、以下の点について検討を進める必要がある。

1. 共起語の偏在性への対応

共起語の出現には教科書ごとの差異が大きかった。教科書をもとにコロケーションを選定する際には、特定の教科書を基準にするのか、または複数教科書で共通して出現する語を優先するのかといった、基準の設定が求められる。

2. コロケーションの選定基準の明確化

本研究では2つのコロケーション辞典を参照したが、両辞書のデータの違いは大きく、使用する辞書によって、コロケーションの構成素とされる語彙の範囲が大きく異なってくる。今後はどの辞書あるいは基準をもとに構成素を選定するか、その妥当性を含めて明確化する必要がある。

3. 日本人学習者に即したコロケーションの選択

日本人学習者は、学習段階や母語の影響により、コロケーションの習得において特有の困難を抱える可能性がある。そのため、単に教科書あるいは辞書に基づくだけでなく、日本人学習者が実際に使用する場面、習得しやすさといった観点も考慮したコロケーションの選定が必要である。

教科書

- Albrecht/Fandrych/Grüßhaber u.a. (2014) *Passwort Deutsch 5. Kurs- und Übungsbuch*. Stuttgart: Ernst Klett Sprachen.
- Braun/Doubek/Fügert u. a. (2016) *Kurs- und Übungsbuch. DaF kompakt neu B1*. Stuttgart: Ernst Klett Sprachen.
- Braun-Podeschwa/Habersack/Pude (2014) *Menschen. Deutsch als Fremdsprache. B1.1. Kursbuch*. München: Hueber Verlag.
- Braun-Podeschwa/Habersack/Pude (2014) *Menschen. Deutsch als Fremdsprache. B1.2. Kursbuch*. München: Hueber Verlag.
- Hilpert/Kerner/Orth-Chambah/Pude u.a. (2018) *Schritte International neu 5. Niveau B1/1. Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch und Arbeitsbuch*. München: Hueber Verlag.
- Hilpert/Kerner/Pude/Robert u.a. (2018) *Schritte International neu 6. Niveau B1/2. Deutsch als Fremdsprache. Kursbuch und Arbeitsbuch*. München: Hueber Verlag.
- Kaufmann/Lemcke/Rohrmann u.a. (2017) *Berliner Platz 3 NEU. Deutsch im Alltag. Lehr- und Arbeitsbuch*. Stuttgart: Ernst Klett Sprachen.
- Krenn/Puchta (2016) *Motive. Kompaktkurs DaF. Kursbuch, Lektion 19-30. Deutsch als Fremdsprache*. München: Hueber Verlag.

辞書

- Buhofer, A. H. et al. (2014) *Feste Wortverbindungen des Deutschen: Kollokationenwörterbuch für den Alltag*. Tübingen : Francke.
- DWDS - Digitales Wörterbuch der deutschen Sprache. Statistische Auswertungen – DWDS – Wortprofil. Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften. (<https://www.dwds.de/>)
- Quasthoff, U. (2011) *Wörterbuch der Kollokationen im Deutschen*. Berlin : De Gruyter.

参考文献

- 畔元里沙子 (2023) 「高校英語教科書におけるコロケーションの特徴分析」 英語コーパス学会語彙研究会 *Journal of Corpus-based Lexicology Studies* 5, 24-38.
- Barnard, C. (2010) 『100の超基本名詞で広がる英語コロケーション 2500』 プレイス
- 中條清美・吉森智大・長谷川修治・西垣知佳子・山崎淳史 (2007) 「高等学校英語教科書の語彙」『日本大学生産工学部研究報告 B』 40, 71-92.
- Cowie, A. P. (2009) 「慣用連語辞書：東欧と西欧の比較」 Cowie, A. P. 編『慣用連語とコロケーション – コーパス・辞書・言語教育への応用 –』 くろしお出版 267-292.
- 福富かおる (2012) 「中学生における基本動詞 make の文法的・語彙的コロケーションについて」『熊本学

- 園大学文学・言語学論集』19 (2) , 95-116.
- Hausmann, F. J. (1985) Kollokationen im deutschen Wörterbuch. Ein Beitrag zur Theorie des lexikographischen Beispiels. In: Bergenholtz (Ed.) et al. *Lexikographie und Grammatik: Akten des Essener Kolloquiums zur Grammatik im Wörterbuch*, 28.-30.6.1984. Berlin: Gruyter, 118-129.
- 堀 正広 (2012) 『これからのコロケーション研究』 ひつじ書房
- 小屋多恵子 (2010) 「日本人英語学習者に効果的なコロケーション・ワークブックとは？－コロケーション・ワークブックの現状と改善点－」『法政大学小金井論集』7, 61-72.
- 小屋多恵子 (2015) 「基本コロケーションリスト作成のための一考察」『法政大学小金井論集』11, 19-32.
- Takesue, T. (2019) Collocation research based on junior-high school English textbooks in Japan. 『熊本県立大学大学院文学研究科論集』12, 125-137.
- Takesue, T. (2022) Collocation analysis of the revised version of junior high English textbooks and a comparison with the previous version. 『九州英語教育学会紀要』50, 41-50.
- Tschirner, E./Möhring, J. (2020) *A Frequency Dictionary of German. Core Vocabulary for Learners*. Second Edition. London: Routledge.
- 恒川元行 (2019) 「名詞を核とするコロケーションの収集と整理－日独対照表現データベースの作成－」科学研究費補助金（基盤研究（C）2015～2018年度 課題番号：15K02521）研究成果報告書
- 恒川元行 (2020) 「コロケーション辞典における名詞記述の比較と分析」井口靖・黒田廉・恒川元之・成田克文・カンミンギョン『ドイツ語基礎語彙のコロケーションに基づく意味分析とその独和辞典記述方法の検討－理想の独和辞典を目指して－』科学研究費補助金（基盤研究（C）2016～2019年度 課題番号：16K02667）報告書, 107-144.

*本研究は、JSPS科学研究費補助金（課題番号17K02923）の助成を受けたものである。

